

発展会議におけるこれまでの主な議論(抜粋)

系統	発言
産業政策全般	<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興を狭く捉えることなく、広く各分野に関わるような産業振興を考えていく必要がある。 ・商工農を中心とする産業をしっかりと後押しするべき。商工農建設など伝統的な業種にしっかりと目を向けることがまずは必要では。 ・顔の見える化により、1人1人が社会課題の解決のきっかけや機会を得ることができる。 ・デザイン思考の考え方が有効。 ・多様性、持続性、共同性、公益性、わくわく、共創、コモンなどの考え方を意識する必要がある。 ・街の人たちが「ごちゃ混ぜ」になることで街は良くなる。街を自分ごと化できることを目指すべき。いろんな人と出会える機会や拠点をリビングラボとして整備するのが効果的ではないか。 ・1対1の支援ではなく、連携した主体にアプローチするのがよい。 ・「個人の意識改革」と「仕組みの改革」を両輪で検討することが重要。 ・地区単位で産業政策を検討する必要があるのではないか。 ・若い世代がその分野で生活していける環境を整備することが必要。 ・セキュリティの部分やセキュリティ人材についても考慮する必要があるのではないか ・新旧の業種が上手くブレンドされる仕組みが必要。産業連関的なコーディネーターによって、業種間の連関が生まれるのではないか。 ・ソーシャルインパクト指標を活用し、インパクト示し、区の政策に反映していくことが重要。 ・点と点のリソースを面に広げる取組が必要。 ・大学を取り込んだ取組を進めるのがよい。 ・域外連携の要素も必要ではないか。 ・誰がやるのかの主語を明確化する必要があるのではないか。 ・取捨選択や優先順位、タイムラインなどのロードマップ化が必要ではないか。 ・シンボリックな事業を提示していくことが必要ではないか。 ・ウェルビーイングがキーワードとして設定されて、そこを目指して各種取組がなされるべきではないか ・産業を後押しするならば、インフラ(鉄道、高速道路等)が最大の課題ではないか。空き家の問題も大きな課題。どう解決するかも検討すべく。 ・生産者、事業者、そして消費者もキーワード。消費者であると同時に労働者、生産者でもあるところに注目。
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街は街の賑わい作りや街路灯設置など公益的取組も実施。一方で、商店街だけで取り組むのはハードルが高い面がある。 ・地域でどう人が繋がっていくかのコミュニティが重要であり、商店街が果たすることができる役割は大きい。 ・事業承継と組織強化(加入促進含む)は重要な課題。商店街組織を持続することが困難になりつつある地域もある。 ・各団体や個人の活動の場としても、商店街を活用してもらったり連携強化することが必要。
工業	<ul style="list-style-type: none"> ・人の繋がりが大事であり、場を作ることが大事。 ・伝統的な技術やもったいない事業が継承されない状況が起こっており、事業承継は重要な課題。 ・スキル等に格差があり、レベルに応じたサポートができるとよい。 ・準工業地域は縮小傾向。住民とのコミュニケーション重要。 ・世田谷らしい工業や農業という観点で、学びやコミュニティの要素が加味されてもよいのではないか。
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が農業で生活していける環境を作る必要あり。 ・農業の地産地消を進めるために、ふるさと納税や学校給食を活用した販路の拡大ができればよい。 ・区民と農業の接点の増加が今後必要ではないか。 ・世田谷らしい工業や農業という観点で、学びやコミュニティの要素が加味されてもよいのではないか。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業は若い層が入ってこず、高齢化が進んでいるなど人材確保が重要な課題。 ・地元業者が受け、下請け、雇用につなげていく取り組みを更に進めるべきではないか。 ・消費者と事業者の関係が近くなり、理解を得られる関係性が作られるとよい。
産業団体のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団体は公益的役割も担う中で、活性化を図ることが街の活性化など地域にも大きな貢献として波及する。 ・産業団体に入ることでも多様な情報を得ることができるなどのメリットは大きい。
産業支援のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーランスなどの働き方も増えており、外部のプロフェッショナルとの橋渡しがなされるとよい。 ・区内にいる地域のプロフェッショナルで解決する、繋がる仕組みができるとよい。 ・IT活用が課題ならば、行政で、地域のスキル人材を揃え、地域全体で支援していくべきではないか。 ・チャレンジを街の人が応援できる環境が重要。 ・「支援産業」を後押しすることが都市型産業の特徴になるのではないか。波及も大きい。 ・税理士や信用金庫など様々なところから情報が取れるプラットフォームを構築してはどうか。 ・雇用や起業ではなく、業務委託などを含む多様なグラデーションを踏まえた支援のデザインが必要ではないか。
働き方	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアが途切れない、働き方に無理がない、変化に適應できる、自分の活用の価値を認識できるなどが働き方のサステナブル化につながる。働き方のSX化を推進する必要がある。 ・多様な就業機会を作ることや多様なキャリアや多様な人材を評価する事業者へのインセンティブやフォローが課題解決につながる。 ・Z世代は、収入や経験よりも、誰と仕事するか・何をするかなど仕事と人生のバランスを重要視しており、これらを踏まえた雇用促進も必要。 ・本業で仕事をしながら、やりたいことを副業でやる生き方も増加。行政として副業の促進を図るべき。

系統	発言
起業・創業	<ul style="list-style-type: none"> ・起業創業に力を入れるというよりは、新しいことにチャレンジすることがアントレプレナーシップであり、そのような土壌を整えることが重要。 ・起業無関心層が関心を持つことが大事。地区レベルのコミュニティで起業家と交流ができる場が必要。 ・伴走支援は効果的。 ・小さくやることが大事。実証や実装に向けた実験的なことを短期間で繰り返せる場、寛容な場が必要。ライトな形でできることが必要ではないか。 ・積極的にチャレンジして失敗しても再起できるということを底支えできるとよい。 ・スローな起業が世田谷らしさではないか。 ・起業家というハードルも高く、意欲や思いのある人が積極的にチャレンジできるというほうがぴったり ・起業したい人や多少手伝えるという人が支援できる環境を作ることが重要。
定着	<ul style="list-style-type: none"> ・起業した後定着するビルや床がない。 ・ベンチャーが根付く街になるには、区と連携するところや受け皿、素養が必要になる。
事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ・事業承継なり廃業なり、できるだけ周りも納得の上で、引き継いだりできることを目指して相談事業を実施する。(竹内) 事業承継のマッチングのやり方も検討必要 ・担い手がいない。 ・土地を保有していると事業承継するより、不動産業に転じ土地を貸した方が有利となり、特にその点は世田谷特有の課題。 ・顔が見える情報共有で円滑な事業承継を図る必要があるのではないか。 ・建設業で働く人は現象しており、外国人研修生が補っているのが実態。そうだと技術は伝承されない。 ・地域金融機関と世田谷版事業承継ネットワークのようなものを作るとよいのではないか。 ・時代の流れを踏まえた事業転換のサポートが大事。 ・事業がうまくいかなかった際に円滑にやめることや譲渡できることが見えることもチャレンジを引き出す要素。 ・廃業時に負の影響を少なくするための支援も必要ではないか。
ソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題に関心のなかった人と当事者が出会い、共創を生み出していく環境が必要。 ・社会課題に対するオープンバージョンのプラットフォームを通じて、外部のアイデアを取り入れる取組を行うべき。 ・ソーシャルビジネスは資金集めが難しく、ソーシャルビジネスを推進するならば、促進のためのファンドの検討が必要ではないか。 ・副業的にソーシャルビジネスを立ち上げることを支援するのがよい。
エシカル	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者向けの啓発のみならず、事業者向けの意識を高める取組があると、エシカルの取組は広がる。 ・エシカルの下に脱炭素が位置づけられるべきではないか。
SDGs、サステイナブル、地域循環	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに取り組むことが諸けに繋がる気づきを行政から啓発したり、実際に契約などにつながることの普及が必要。 ・人材が移動することで地域が活性化する。 ・メインテーマは、サステイナビリティとウェルビーイングがキーワードであると思っている。 ・若い人たちにおけるSDGs意識の高まりや、地球環境や惑星の危機認識が高まりから、サステイナビリティという大きな視点。そして個人としての豊かさが外に向かってコミュニティの幸せに繋がりに連鎖していくというウェルビーイングの考え方。それが最上位のテーマだと考えている。 ・企業が利益を得たタイミングで何かしらの循環を生み出すために地域還元する。還元することによって何かしら循環が起こるような設計がされるとよい。 ・利益を出たものを還元するという話では、今持たざる者が、持てる者になったときに、気持ちよく出せるものが区にあってほしい。
交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・街の特色付けと異業種間交流を活性化することで、立地の促進にも資する。 ・繋がりを生むようなサードプレイスが不足。経営者と個人事業主の交流の場や、壁打ちができる連携を促す土壌作りや制度作りが必要。 ・地域における連携は商店街が1つのキーになる。地域の人とのコミュニケーションを図る場において情報交換も進む。 ・街の子どもが働く大人と日常的に触れ合える、刺激を受けることができる環境が重要。 ・世代や属性を超えて多くの人たちが楽しめるエンタメコンテンツはコミュニティの中心となりうる。街の活性化の観点から検討が必要では。 ・スキルを持つ人が1つの会社とマッチングするのは難しく、主体を広く捉えて連携を促すことが必要。 ・小さくスタートすることが大事。社会実験的なトライアルが寛容的・頻発的に起きる場所を作り、街の人が応援できる機会を作ることが大事。 ・製造側と消費側の距離を近める仕掛けが必要。 ・子どもの教育と、ものづくりなど産業が接する機会を増やすことが重要。
資金調達	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠預金の活用やインパクト投資の促進など。実験的な資金で産業を後押しすることが必要。 ・街の中で投資者を集め、地元企業に投資できる仕組みがあると地域経済循環も加速。地元住民が地元企業を応援できる。 ・購入型クラウドファンディングであれば難易度が低く、地域産業の創出のためであれば出資者の方々にも説明ができる。地域のためにということであれば、投資者も納得感がある
チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なチャレンジの結果として失敗しても再起できることを応援する仕組みを考えるべきではないか。 ・起業家を育成するというよりは、チャレンジ精神や意欲、思いのある人が積極的にチャレンジできる土壌を醸成することが必要。 ・事業がうまくいかない時や事業を譲渡する流れが見えることも、チャレンジを引き出すことにつながる。 ・チャレンジする人を街の人が応援できる仕組みが重要。